



尾久八幡

令和7年度7月号
令和7年7月4日発行
荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

地域の健全育成活動に参加・協力しました。

“社会を明るくする運動”街頭パレード 参加 6月8日(日)

本校では、社会貢献活動・地域奉仕活動を奨励しています。

6月8日(日)、尾久地区の第75回“社会を明るくする運動”街頭パレードが行われました。これは、“社会を明るくする運動”尾久地区推進委員会の主催により、犯罪や非行のない明るい社会を築くための啓発宣伝を目的としています。今年は、尾久小学校をスタート地点として大門小学校まで歩くルートでした。



この街頭パレードに、今年も吹奏楽部が参加、第一梯団で演奏パレードを行いました。当日は、強い日差しもなく、この時期には気温もそれほど高くなかったので、歩きながらの演奏する上では助かりました。なにより、吹奏楽部にとっては、日頃の活動の成果を地域の方々にご覧いただける機会となりました。

これからも機会があれば、こうした地域活動にできる範囲で参加・協力していきたいと思います。吹奏楽部のみなさん、お疲れさまでした。

また今年は、安全・警備に関して警察からも指導があり、隊列が広がりすぎることがないようにするためのロープによる誘導等、係分担で多くの保護者の皆様にお手伝いいただきました。ご協力、ありがとうございました。



他校の生徒と協力して取り組み、互いの交流を深めることができました。

6組 清里移動教室 6月18日(水)～20日(金)

6月18日(水)から20日(金)、区内4校合同での清里移動教室が行われました。

6月18日(水)、学校を出発し、談合坂サービスエリアで他の3校と合流、そろって小淵沢にあるスパティオ体験工房に行きました。ここでは様々な工芸体験ができ、生徒はそれぞれ選んだ工芸作品づくりに取り組みました。どれも難しそうでしたが、インストラクターの方の丁寧な指導もあり、楽しく制作することができました。完成した作品は、どれもなかなかの出来で、自分だけの“お土産”を完成させることができました。



6月19日(木)二日目、午前中のプログラムは、「山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」及び「清泉寮やまねミュージアム」の2カ所の見学、「富士山とせせらぎの小径」ツアーを行いました。見学では、清里の自然に関するビデオを観たり、やまねの生態に関する展示を見たりしました。「富士山とせせらぎの小径」ツアーは、ネイチャーガイドの方と一緒に林の中を散策しました。もみの木の葉のにおいをかぎその自然の香りの良さを知ったり、ささ舟をつかって川で上手く流れるか試したりしました。中でも、鹿のフンの見本をもとに草原を探してみると実際に見つけることができたときには、清里の自然の豊かさを実感することができました。

その後、白樺湖畔の池の平レイクサイドプラザまで移動、お土産購入と昼食、そしてソフトクリームを堪能しました。高原で食べるソフトクリームの甘さは沁みました。

夜はキャンプファイヤーの予定でしたが、雨雲が接近していたため、急遽、体育館でのキャンドルファイヤーとしました。採火のセレモニーでは、高田さんと久保田さんが八幡中の代表として“火の神”から「元気の火」と「友情の火」を受け取りました。その後のレク大会では、「猛獣狩りゲーム」とフォークダンス「マイム・マイム」が行われ、大いに盛り上がりとともに、他校の生徒とも交流を深めることができました。



6月20日(金)最終日は退園式の後、富士見高原スキー場に向かい、そこで「天空カート」に乗りました。これは、自動運転のカートで約25分かけて山頂「創造の森」まで登るアトラクションで、標高1,420mからの180度大パノラマは、富士山こそ見えませんが、南アルプス、北アルプスを望む絶景でした。また、高原をわたる風はさわやかで、自然を満喫することができました。

今回の移動教室は、6組内はもちろん、他校の生徒とも交流を深めることができました。ここでの協力の成果を学校に戻ってから生かして行ってほしいと思います。

スローガンのように、学年の Level Up につながる宿泊行事になりました。

2年 下田移動教室 6月25日(水)～27日(金)

6月25日(水)、あいにくの雨の中、下田臨海学園に向けて東京を出発、途中、伊豆旅の駅「ぐらんぽーと」で昼食を取り、最初のプログラム「土肥金山」を見学しました。

実際に使われていた坑道を見学路として整備した「坑道めぐり」は、等身大の人形が採掘の場面を再現、様々な職種に分かれて作業が進められていたことがよく分かりました。「黄金館」では、かつての土肥の街を再現したジオラマなど、江戸時代の様子を知ることができました。パンニング皿を使って温泉水から実際に砂金を採る「砂金採り体験」では、皿を回して砂金だけを残していくことが最初は上手くできなかったのですが、だんだんとコツをつかんで、ほんの少しですが砂金を採ることができ、面白かったです。



夜は、伊豆半島ジオガイド協会の方に来ていただき、ジオ学習を実施しました。はじめに、伊豆半島各地の砂のサンプルを使って「伊豆半島 砂の標本」を各自で製作、それをもとになぜ地域によって砂の特徴が違うかについて、考察したことを発表しました。その後、解説ビデオを視聴しながら、伊豆半島の成り立ちと砂の特徴との関係について学習しました。伊豆半島各地の砂を実際に見比べてみると、その特徴の違いは歴然で、学習内容の理解を深めることができました。

6月26日(木)移動教室2日目、昨日とはうって変わって朝から晴天でしたが、午前中予定していた「堂ヶ島洞くつめぐり遊覧船」は波が高いため欠航となってしまいました。そこで代替として計画していた「体感型動物園 iZoo」に行ってきました。ここは、爬虫類に特化した飼育繁殖施設で、飼育体験など、直接触れ合うことができる体感型動物園です。生徒たちは、ヘビやトカゲ、カメなど、始めは恐る恐るでしたが、普段出来ない体験を楽しんでいました。



宿舎に戻り、すこし早めの昼食をもどり、午後は外浦海岸での「シーカヤック体験」と「サンドアート制作」を行いました。

「シーカヤック体験」では、インストラクターの方から操船上の安全講習を受けた後、グループごと交代で、操船体験をしました。昨年の移動教室で白樺湖へ行きレイクカヌーを体験、パドルの使い方にも慣れていていたためか、みんな戸惑うことなくカヤックを操っていました。インストラクターのサポートを受けながら、湾内の先の方まで行くことができ、そこから見る景色は爽快でした。

また、裏表のプログラムとして、班ごとに「サンドアート制作」に取り組みました。スコップ1本・園芸用シャベル2本・バケツ2個という、限られた用具をうまく使いながら、班それぞれに与えられたお題で制作するというもので、どの班も協力しながら時間を忘れて取り組んでいました。なかには、この短い時間内でつくったとは思えない、なかなか見ごたえある出来栄のものもありました。

約3時間の野外活動でしたが、日差しがそれほど強くなく、風もあって涼しく、熱中症等体調不良になる人もいませんでした。



下田の自然の中で、ネイチャースポーツの屋外実習、協同作業による班活動など、日ごろ東京・学校ではできない充実した体験活動を行うことができました。



夜の「フォトフレームづくり」は、貝殻やシーグラス、それにビーズを使って装飾する作品づくりでした。みんな思い思いにグルーガンを使って貼り付けていくと、はやい人で20分、ゆっくりの人でも制限時間の40分あれば完成させることができました。用意していただいたシーグラスは柔らかな水色、貝殻も淡い色合いなので、それを使って作ったフォトフレームは、どれも夏に涼しさを感じさせてくれる、これからの季節に似合う作品に仕上がりました。

6月27日（金）、退園式の後、移動教室最終日は、「伊豆シャボテン動物公園」を見学しました。ここの特徴は動物たちとの距離が近く、カピバラやミーアキャット、プレーリードッグなどをすぐ手の届くところで見ることができることです。孔雀も放し飼いのため、目の前で羽根を広げる姿にも遭遇しました。1時間ほどの見学時間でしたが、十分楽しむことができました。



今回の移動教室では、学校外での集団行動・集団生活を通じて、多くのことを学びました。天候の影響で到着時間が遅れるといった不測の事態でも、臨機応変に対応してその後の予定を見事にこなしたり、慣れない場所での活動でも、互いに協力してやり遂げてくれました。こうしたことは、実際の体験・経験を通じてでしか得られないものではないでしょうか。この三日間で、そうした2学年のみなさんのよさ、成長する姿を見ることができました。スローガンのように、学年の「Level Up」につながる宿泊行事になりました。